

ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト実行委員会

H25.12.15

はじめに

豊富な天然秋田杉の木材産業で栄えた木都能代、その隣旧ニツ井町はその生産地であった。ニツ井町梅内は11の集落からなり、戸数170戸ほどで、森林面積は集落林400ha、個人有林800ha合わせて1,200haと、多くの森林に囲まれた山村地域です。



梅内聚落(自治会組織)の植林記念碑によれば、植林は明治18年部分林の設定に始まりその後、時の先駆者たちにより、梅内沢の国有林に部分林契約が結ばれた。森林の成長とともに収益も得るようになり、戦後の復興とともに植林意欲も高まった。更に、昭和41年「林野法」の改定により、全集落住民に1haの原野が均等配分され、杉の植林が大いに奨励され面積が拡大された。森林からの収益は聚楽財政はもとより住民へも還元された。



植林記念碑 実行委員長、事務局長

木材需要の低下や外材輸入の増加、住民の高齢化など社会情勢により、間伐等適切な管理が行き届かない森林が多くなってきた。梅内聚楽では、森林の振興のため市や県に対し基幹林道や作業道整備の要請をし、今現在は2か所で工事がなされており、整備された林道は有効活用されている。これまで、先祖や先輩たちが汗を流して育ててくれた貴重な財産を、次世代につなげていきたい、そのためにも集落林や個人有林の適切な管理を進めたいという強い思いがプロジェクトに繋がった。

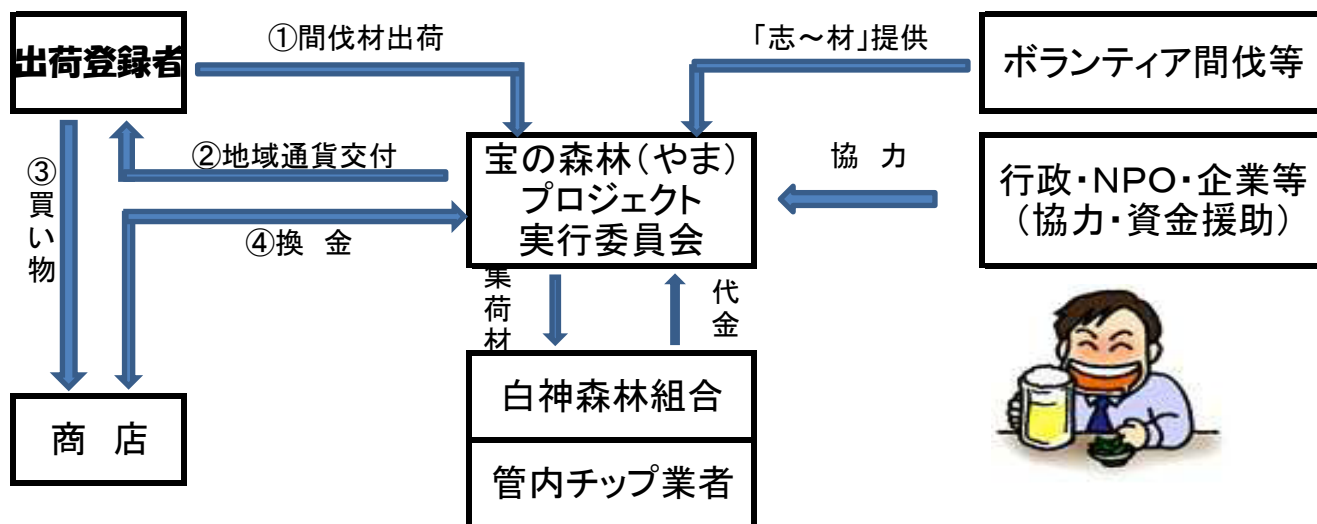
取り組みの経緯

○平成24年2月「現代林業」で木の駅プロジェクトの取り組みを知る。

○3月 梅内聚落の役員会で検討し、取り組みを決定する。

キャッチフレーズ…「軽トラとチェーンソーで晩酌代を」

- 5月 能代市市民まちづくり活動支援事業に応募する(コミュニティービジネスの立ち上げ)。
- 5月 第1回木の駅サミットin恵那(岐阜県)に会員参加する。
- 5月 秋田県森づくり税事業に応募(森林の手入れのためのチェーンソー講習会:学科、実技)
- 6月23日 講師 NPO法人 地域再生機構 丹羽健司氏
 13:30~16:00 梅内地区森林「森の健康診断」 22名参加
 18:30~20:00 講演会「木の駅プロジェクトってなんなの？」 梅内聚楽会館 19名参加



宝券はニツ井地区の「森林保全活動」と「地域経済活動」を促進するための地域通貨です。

見本

刻印無きものの無効
No. 0001

発行日: 平成25年12月26日
使用期限: 平成26年2月20日

本券は1枚で日本通貨1千円以下の価値を持ち、加盟商店で千円以下の商品やサービスなどと交換できます。

ニツ井宝の森林(やま)プロジェクト実行委員会

会実森二
長行林ツ
之委P井
印員民宝
会もの

チェーンソー講習会

- 7月14日 10:00~16:00 学科講習会 ニツ井公民館 19名参加
- 7月29日 9:30~16:00 実技講習会 梅内地区森林 22名参加



登録出荷者、登録店舗説明会

○9月11日午後7時 梅内聚楽会館 出荷登録説明会 15名参加 募集チラシ全戸配布

○9月26日午後7時 ニツ井公民館 店舗登録説明会 5名参加

ニツ井町商工会チラシ配布協力

取り組みの概要

24年度

○市内バイオマス発電所に出荷

ソニー(株)の支援事業を活用、トン／4,000円

○出荷期間 10月20日から12月20日

○宝券(地域通貨)の発行 10月30日～1月31日

○出荷登録者 26名

○店舗登録者 21名

○出材量及び金額 58.68トン 246,456円

○地域通貨使用実績 8店舗 214,783円

25年度

○能代火力発電所チップ混焼用、県の

支援(25、26年)あり、本年トン／6,125円

9月15日～12月20日

12月10日～1月31日

21名

21名

12月末 53.62トン 357,000円

25年度作業風景



* 24年度セレモニー(作業安全祈願祭) 10月27日午前10時 第一土場

NHK地方版「ニュースこまち」で放映、その他北羽新報、秋田魁新報、全国紙地方版でも掲載



成果と課題

○間伐材や林道開設などで林地残材は豊富にあり、時期を考慮すれば出材量は増える。

○個人での出材より集落林の間伐による林地残材が多くあり、会員の共同作業が基本。

○能代火力発電所の混焼への出材は単価が安い。そのため、今年と来年は県補助があるが、行政や森林組合へ支援要請する。

○ニツ井町商工会の全面的な支援があり店舗は確保できたが、地域通貨の利用店に偏りがあり今後工夫が必要。

○新規の林道や作業道が整備されており、個人有林の間伐も奨励し良質材の生産を図りたい。
○今後は薪の需要も増えると考えられ、薪の宅配や薪ストーブ、薪ボイラーの活用策にも取り組
みたい。

本年度は、次代を担う子供たちのため、二ツ井小学校3年生と一緒に、5月はシイタケ、ナメコの
植菌、7月は学習林の枝打ち、10月は馬子岱公園でモミジの植樹を行い、自然に親しむ体験活動
にも取り組んだ。今後もこの活動は継続していくことにしている。特に馬子岱公園をモミジの里と
して長期的に整備したいと考えている。

